

# つらぬけば そこに

6

薄暗い夜が続いている絵を張り付ける。いたずらに敢行したのは

二〇一一年四月三十日「Chim↑Pom」(チムポム)。東京を拠点一カ月半が過ぎた東京・渋谷駅で、その事件は起こった。芸術家集団だ。

通路に掲げられた故岡本太郎の壁画「明日の神話」の一角に、突如として福島第一原発事故の絵が出現したのだ。

骨組みだけになった原子炉建屋から立ち上るドクロのような黒煙。米国の水爆実験で被ばくした第五福竜丸事件をモチーフにした作品に、岡本さんが知るはずのない二十

一世紀の悲劇が紛れ込んでいた。快哉を叫ぶ人、眉をひそめる人。突拍子もない「事件」に世間は沸いた。

壁画の右端でもともと欠けていた部分に、原発

## 「明日の神話」に原発事故

### 「Chim↑Pom」リーダー 卯城 竜太さん(35)



左から林靖高、水野俊紀、稲岡求、エリイ、岡田将孝、卯城竜太(松蔭浩之氏撮影)

## 行動するアーティスト 証明

うしろ・りゆうた 東京都出身。「Chim↑Pom」リーダー。世界各地で展覧会を開催し、海外からの評価も高い。グループ名はエリイが発案。他のメンバーが「後で考えよう」と言っているうちに定着したという。著作に「芸術実行犯」など。



日本を包む自粛ムードに「この空気を突破できるのは自分たちしかないだろうな」という確信があった。

結成は〇五年。卯城のバンド仲間、高校の同級生だった林靖高、宮崎県出身の岡田将孝、岐阜県出身の水野俊紀、造形担当の稲岡求、そして唯一の女性メンバーのエリイ。興味も経歴もバラバラな六人はバンドを組むような感覚で「一緒に面白いことをやろう」と結集した。

いずれも現代美術家の会田誠(あいでまこと)に引かれ、会田が講師を務める専門学校やギャラリーに通ううちに意気投合した。

高校を中退し、アルバイトやバンド活動をしてきた卯城も、会田の作品集に「アートってなんて面白いんだ」と触発された。会田を訪ねて出会ったエリイに「ギャルっぽい。アートシーンにこんな子がいるんだ」と驚いた。そういう卯城も「ちゃらちゃらしていた」。

技術や理屈で勝負する気ははなからなく、身上はノリの良さ。意図したわけではなかったが、まず外に出て試行錯誤するのは自分たちしかいない作品を生んだ。「六人いることで一つの社会ができる。誰かのアイデアをみんなが楽しめるものにと話し合ううちに一人の趣味を超え、社会に関わるものになった」

エリスの追跡